

バケツ稲から学んだこと

呉市立昭和西小学校 五年 湊 沙奈

「お母さん、花みたいなものが出てるよ。」  
それを聞いたお母さんか「あわてて私がいる  
トランダに出てきました。そしてバケツで育  
てている稲を見たお母さんは、うれしそうに  
「それは、稲の花だよ。」  
と言いました。稲の花は、二時間ぐらいいしか  
さかないため、なかなか見ることもできません  
ん。

「え、これか稲の花なの。不思議な花だよ。」  
と私は、言いました。

私は、四月か「バケツ稲づくり」にちよ  
う戦っています。最初は、とても小さな種も  
みを水にひたして芽が出るのを待ちました。

（こんなに小さな種もみか、とても大きな  
稲になっ、て、本当に穂が出てくるの？）  
と、ちよ、う戦する前まで思っていました。

一週間ぐらいで芽が出てきたので、土を入  
れたバケツに植えました。それから葉が三ま

いに増えたら、苗の移しかえです。

苗を全部抜いて、丈夫な苗を五本選び、バケツの中心にまとめて植えました。苗を移しかえたら、毎日水を足し、どんどん大きくなっ  
ていくのを見守りました。

次にある「中ぼし」という作業がとても重要で、おずかしかったです。中ぼしとは、バケツの中にある水を抜き、土かわわいてヒビが入るまで数日待ちます。中ぼしをすることによっ  
て、土から有害ガスが抜け、酸素が入り

根は水を求めてのびるので、丈夫な稲が育ちます。

中ぼしでおずかしいと思っただのは、天気予報を見て水を抜くタイミングを決めなければいけなかつたことです。とちゅうで雨にぬれたり、かわかし過ぎたりすると、稲がかれてしまうことかあるのです。

私は、学校から帰ると、ヒビが入っているか様子を見ていました。そして、ヒビを発見した日に水を注ぎました。水が入ったバケツ

から、ふくふくという音外聞こえたことが面白かったです。

中ほしか終わって、くまが増えなくなり、細いくまや葉がかれていき、穂か出るじゅんびに入りました。

初めてくまのさやを割って穂か出た時は、穂かこんちは、と私にあいさつをしているように見えませんでした。今まで、数日かけて穂かくまから生えてくると思っていたので、びっくりしました。

穂か出てくると、さすがにねらわれたり、害虫が寄りついて来たりするかもしれないので、ネットで調べて来たりするかもしれません。

バケツ稲で学んだことは、想像より育てるのかわずかしいということ。土のじゅんぴや水の管理、そして害虫が付いていないかを見ないといけません。お米はたくさんの手間をかけて育てられていると気づきました。これからは、一つぶ一つぶを今まで以上に大切に食べたいです。